

三井物産環境基金 2011 年度 東日本大震災 復興助成（第 2 回募集）研究助成  
社外案件選定委員による総評

今回が第 2 回目となる復興助成の研究助成案件の選定が行われました。大変残念なことに、応募件数に対する助成率が 10%という非常に低い率に留まりました。

これまで、様々な提案公募型の審査を進めさせていただきましたが、今回の案件の内容を読ませていただいたときに思い出したことが、1990 年代の環境科学の特別研究、重点領域研究における課題審査をやっていたころの感触でした。「多くの提案が、単に、研究費を求める目的のみで書かれている」。

今回復興助成で期待していることは、現地の復興に直接貢献できる研究結果を生み出すような提案です。現時点で、復興に関し、どのような重大な問題を抱えているのか、その把握が第一段階です。

それには、現地に入り、現地の人々との直接の対話を行う過程で浮かび上がってきた課題・問題を、いかに解決できるか。それに研究面でいかに貢献できるか、という具体性があることが第一の条件になります。

勿論、科学的・社会的な事象を解析するタイプの研究の必要性も認識しているところではありますが、今回の震災を外から冷徹な目で観察し、それを解析して論文を書くという研究は、それこそ各分野 1 件あれば十分で、それよりも現地の人々に感動を与えることができるような研究成果とは何か、それを出すにはどうしたら良いか、ということを実際に考えた結果生まれた「熱い提案」を優先したいと考えて、今回の審査に望みました。

第 1 回目は、幸いにして、それに値するかもしれない、という課題が数多く見つかりましたが、今回は、ほとんど見つかりませんでした。

この状況が、助成率 10%という結論につながりました。

この文章を読んでいただく段階では、第 3 回目の募集は締め切りを迎えております。そのため、「熱い提案」を出していただくチャンスは、今後の検討の結果にもよりますが、今年度下期以降の復興助成の募集、あるいは例年行ってきた通常の研究助成の募集になる可能性があります。

現地の人々、もしくは、日本の社会全体に、感動を呼び起こすことができるような、問題・課題解決型の思いが熱い研究提案が多数提案されることを期待したいと思います。

以上